

3. 植物採集活動

3-3. 食用植物

3-3-4. 農作物

沙流川筋では、狩猟には、イウォル iwor（狩猟場）が決まっています、自分のイウォルに獲物がないからといって、他のイウォルに行くことはできないので、狩猟だけで生活するのが大変になったのだと思う。しだいに生活が苦しくなり、畑作に力を入れるようになったと思う。

[門別 鍋沢強巳氏]

沙流川は、川上から流木をさげてくれたり、大水で川原を埋め尽くすので水がひいたあと泥の上にヒエ・アワを蒔くと農作物がよい。

新平賀では、大水害の水がひいた後に柳原に水がたまって、その水が引くとそこに泥がたまる。その泥の上にアワ・ヒエをばら蒔いて農作物を作っていた。柳を払って日当りを良くすると作柄がよい。アイヌには楽な農法だった。ソバもよくできる。この粘土の上で作物をつくる農法をコポンチカル koponcikar（粘土作）という。コポンチ koponci は、「粘土」の事だ。自分は大正時代にこの農法をよく見た。

[門別 鍋沢強巳氏]